

■ドイツ：ドイツ産業自家発連合（VIK）、瞬時電圧低下の増加を懸念

ドイツの産業自家発連合（VIK）は2012年6月4日、2009年～2011年までの産業分野の需要家を対象とした電力供給の品質調査の結果を公表した。調査結果によると、過去3年間で電力の供給支障件数が30%増加しており、年間の停電事象に対する1秒以下の瞬時電圧低下等の割合は2009年の調査時の59%に比べて2012年値では72%に増加した。また、将来は電力品質がさらに低下するのではと懸念を示しているVIKメンバー企業の割合は前回調査時には19%であったが今回は40%に増えている。さらに、2011年1月、2月に比べて、2011年3月に原子力発電所が8基閉鎖された以降の月間の瞬時電圧低下件数はそれ以前の5倍になっている。VIKは、監督庁である連邦系統規制庁（BnetzA）が毎年公表する需要家一軒当たりの停電時間には3分以下の停電は含まれていないことに対し、電圧変動に非常に敏感な技術システムを持つ多くの企業にとって、電力品質の低下は重大な問題であるとは対応を促している。